

豊臣兄弟！

NHK 2026年大河ドラマ

豊臣秀長が兄の秀吉を
天下人に導くサクセスストーリー

完全読本

豊臣秀長役

仲野太賀

豊臣秀吉役

池松壮亮

織田信長役

小栗旬

市役

宮崎あおいほか

28名の特別インタビュー

尾張&長浜&大和郡山ほか
44か所のゆかりの地ガイド

ストーリーダイジェストは
用語解説付き

ゆかりの地を訪ねて

元NHKアナウンサー

松平定知

NHKエグゼクティブ・アナウンサー



両兵衛の麗しき友情

特別インタビュー

水野隆生

(垂井町街角案内会員)

竹中半兵衛(重治)は、秀吉に与力として仕えた軍師です。大河ドラマ「豊臣兄弟」でも、秀長や蜂須賀正勝らとともに側近として秀吉の躍進をサポートしています。垂井町街角案内会員の水野隆生さんに、半兵衛のふるさとを案内してもらいました。



垂井駅の北ロータリーに建つ竹中半兵衛の銅像の前にて

ふたりの天才軍師が織りなす絆のドラマ

古谷 竹中半兵衛(重治)について教えてください。

水野 斎藤龍興に仕えていた半兵衛は、酒色に溺れて

政務を顧みない主君を戒めるため、わずか十数名の家臣を連れて、たった1日で稲葉山城(岐阜城)を落としたことで有名です。美濃攻めをしていた織田信長にその知謀を見込まれ、「三顧の礼」をもって軍師に迎えられたといわれます。

秀吉に与力として仕え、のちに黒田官兵衛とともに「秀吉の両兵衛(二兵衛)」と称えられました。ともに優れた軍師である半兵衛と官兵衛は、お互いを認めあう「盟友」だったと伝わります。

古谷 無実の罪で官兵衛の嫡男・松寿丸(のちの黒田長政)が信長から殺害を命じられたとき、半兵衛が命がけで助けたというエピソードはあまりにも有名です。松寿丸を極秘に匿った場所が、現在の五明稲荷神社だとお聞きしました。

水野 現在、五明稲荷神社が鎮座する場所には、半兵衛の側近である不破矢足の屋敷が建っていました。姉川の戦いのとき、半兵衛の弟・久作の後見として参陣し、足に矢が刺さりながらも浅井方の武將を討つたことから、その武功を称賛した半兵衛によつて矢足と命名されたそうです。

古谷 なんと豪快なエピソードですね。

水野 天正6年(1578)、信長に対して謀反を起こした有岡城主・荒木村重の説得に向かった官兵衛は、城の土牢に監禁されました。官兵衛が戻らないため村重に同調したと勘繰った信長は、人質として預かっていた官兵衛の嫡男・松寿丸の殺害を命じます。そのころ松寿丸は長浜に預けられ、秀吉の妻・寧々に養育されていました。

古谷 信長の命令に逆らってまで半兵衛が松寿丸を匿ったのは、官兵衛が裏切るはずないと確信していたからなんでしょうね。「英雄は英雄を知る」とはよく言ったもので、男の友情を感じます。

水野 半兵衛は身代わりの少年の首を信長に送り、松寿丸を処刑したように偽装すると、自身は三木合戦に参陣しているため、信頼する矢足に秘密裏に屋敷へ匿うよう命じました。これを知っているのは半兵衛と矢足、そして伊東(伊藤)半右衛門の3人だけで、秀吉さえも知らない超極秘事項でした。

古谷 伊東半右衛門とは、どのような人物ですか？

水野 矢足と同様に半兵衛が信頼を寄せる側近で、のちに関ヶ原の戦いが起こったとき、半兵衛の子・重門に従って東軍に参陣し、ともに戦っています。

古谷 矢足にしろ半右衛門にしろ、主君の半兵衛の期待に応え大活躍ですね！

水野 官兵衛が救出されたとき、信長は自分の間違いを悔やみ、半兵衛の機転で松寿丸が生きていたと知って安堵したそうです。一方、このときの恩を感じていた松寿丸は、黒田長政と名乗った後年に矢足を召し抱えようと申し出ますが、矢足はこれを固辞しています。代わりに仕えた嫡男・正重の家系が、筑前福岡藩士として続きました。

古谷 五明稲荷神社の境内に生えている「松寿丸お手植えの銀杏の木」の由来をお聞かせください。

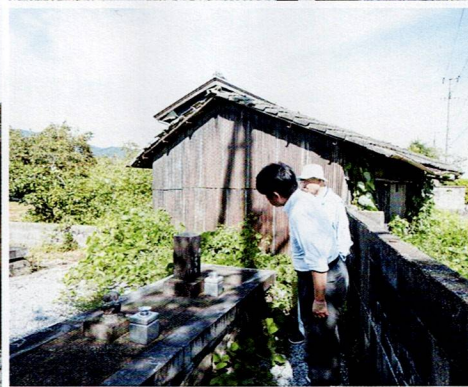
水野 許された松寿丸がこの地を離れるときに植えたといわれます。残念ながら東側の木は樹体が弱ったため、平成28年(2016)に伐られました。葺我記念館に伐られた銀杏の切り株の輪切りが展示されています。また、五明稲荷神社のすぐ北の墓地には、矢足の墓が建っています。



上：禅幢寺の半兵衛の霊屋に手を合わせる
下：タリイピアセンターの玄関内にある半兵衛の像



伊澤編集長と竹中氏陣屋跡の櫓門の石垣上にて



上：伊澤宏樹編集長と「松寿丸お手植えの銀杏の木」の話を聞く
下：不破矢足の墓に参拝して説明を受ける

家紋にも受け継がれた両兵衛の絆

古谷 半兵衛像が建つ竹中氏陣屋跡とはなんですか？

水野 半兵衛の息子・重門が築いた城跡です。竹中氏はもともと堅固な山城である菩提山城を本拠としていましたが、平時には不便なことから麓に居城を築きました。当初は岩手城と称しましたが、江戸時代初期に竹中氏が旗本の身分に留まったため、陣屋と呼ばれるようになりました。

古谷 白壁の櫓門とがっしりした石垣が印象的です。

水野 この櫓門は、旗本の身分としては全国で唯一現存する城郭建造物です。明治新政府の「幕府建造物破壊令」の対象になりましたが、地元有力者たちが「櫓門は善我学校の正門である」と主張して、破却を免れました。すぐ南にある善我記念館には、陣屋の復元予想模型や竹中氏にまつわる史料などが展示されています。

古谷 矢足の逸話が出たときに、重門は関ヶ原の戦いでは東軍に加勢したとうかがいました。

水野 関ヶ原の戦いにおける重門は、当初は西軍に属して犬山城主・石川貞清を援助しますが、井伊直政の仲介によって東軍に鞍替えしました。そして居城である菩提山城を徳川家康に提供しようとしています。本戦では、幼なじみでもある黒田長政の軍勢に合力して激戦地で奮戦しました。

古谷 なるほど。重門は、松寿丸時代にこの地で暮らした長政とは幼なじみになるんですね。

水野 関ヶ原の戦いに勝利した家康が近江に向けて出発するにあたり、重門に米1000石をあたえて、領民の田畑復旧や戦死者を埋葬して首塚をつくることや、焼失した社寺の再建などを命じたそうです。

古谷 戦後処理料という感じですね。

水野 岩手城ごと竹中氏陣屋跡の濠の一部はこのときの1000石を費用として完成したといわれています。「千石濠」の名が残っています。

古谷 櫓門の脇に設置されている半兵衛の銅像も、威風堂々としていて目を引きそうですよね。

水野 垂井町には3体の半兵衛像がありまして、残りの2か所はJR垂井駅の北口ロータリーとタリイピアセンターの玄関内です。それぞれ兜や持ちもの、サイズなどが違いますので、3体を見比べていただけたらうれしいですね。

古谷 禅幢寺は竹中氏の菩提寺とうかがいました。

水野 三木合戦のさなかに陣没した半兵衛の菩提を弔うため、重門が三木（兵庫県三木市）より分骨したのが禅幢寺です。半兵衛をはじめ、竹中氏歴代当主の墓が建ち並んでいます。ただ、3代当主にあたる重門の墓は、江戸屋敷で没したことから東京都港区の泉岳寺にあります。

古谷 半兵衛の霊屋の家紋と、父・重元の霊屋の家紋が違いますね。これはなぜでしょうか？

水野 もともと竹中氏は、重元の霊屋に配されている「九枚笹」の家紋を使用していました。姉川の戦いとき、半兵衛は鏡開きをしようとしていた矢先に陣要請がかかったので、空腹時に食べようと思って餅を懐に入れていたら、合戦のさなかに飛んできた矢が腹部に刺さり、餅のおかげで命拾いをしたそうです。それ以来、半兵衛が使用したのが「黒餅（石持ち）紋」なんです。官兵衛は松寿丸の命を救ってくれた半兵衛への感謝を忘れないために、その家紋にあやかり「白餅（城持ち）紋」を使っていたといわれます。

古谷 両兵衛の絆の深さがよくわかるエピソードです。